

りんごわい性台樹における夏期の薬剤散布量

【1 成果の内容】

- (1) 送風量 720 m<sup>3</sup>/min の条件において、薬剤散布量を 400 L/10a まで削減した場合でも、夏期における主要病害虫であるナミハダニ、輪紋病、炭疽病に対しては、樹体の繁茂程度にかかわらず、550L/10a 散布した場合と同等の防除効果が認められます (図 1、図 2)。
- (2) 9 月上中旬が高温多雨である場合や樹体の繁茂程度が高く薬液到達性が劣る樹では、散布量を 400L/10a まで削減した場合、すす斑病に対する防除効果が劣ることがあります (図 2)。

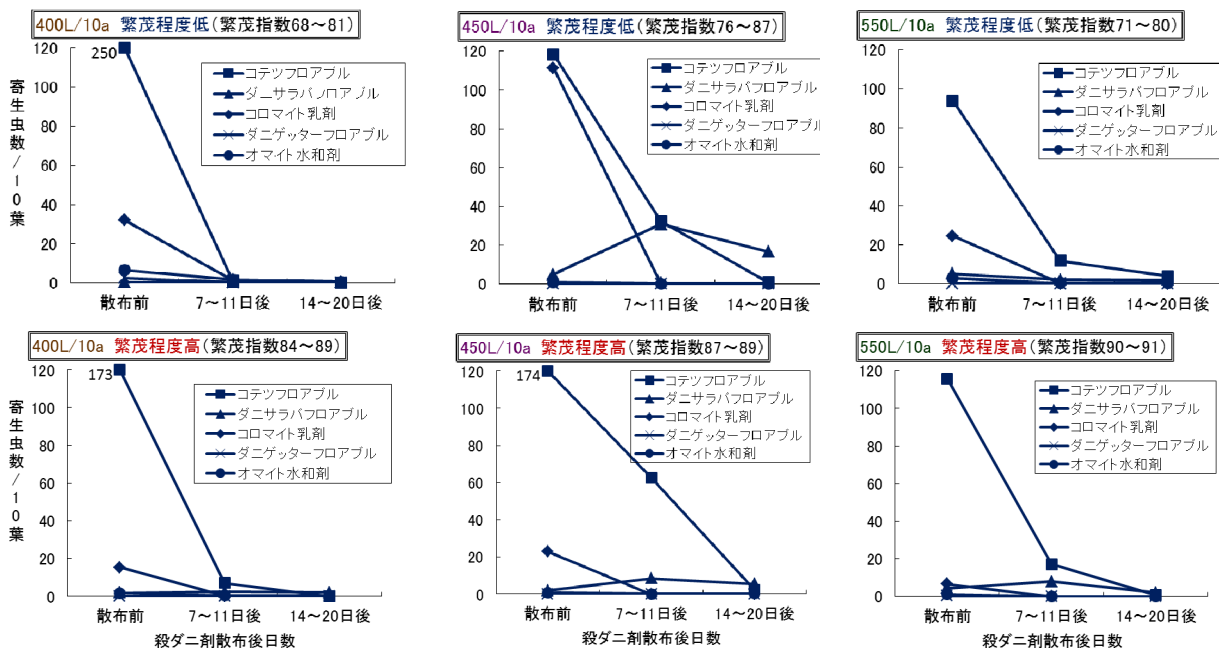


図 1 薬剤散布量と果実病害の発生、樹体の繁茂程度の関係 (H23~26)

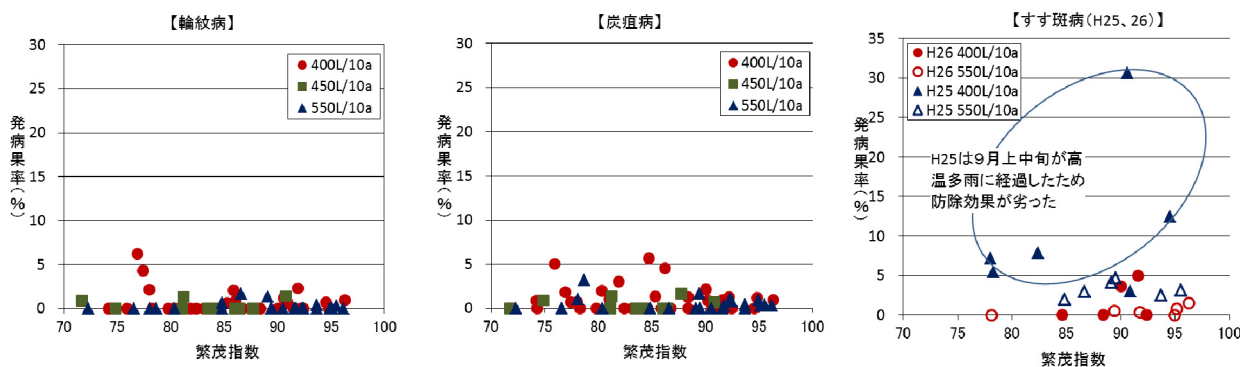


図 2 薬剤散布量と果実病害の発生、樹体の繁茂程度の関係 (H23~26)

【2 留意事項】

- (1) 本成果は、2.5m程度までの高さの葉および果実を調査した結果です。樹高が高い場合は、散布むらが多くなる可能性があるため、低樹高化に努めるとともに、徒長枝のせん除等新梢管理を徹底してください。